

「気軽に文化講座 in 内子」 平成 19 年度カリキュラム

内子町・愛媛大学法文学部人文学科 共催プロジェクト

開催月	内 容	講 師
7 月 25 日(水) 午後 7 時～	「韓国における人間関係とコミュニケーション」 韓国では、人と人との濃厚ともいえる関わり合いが今なお維持され、普段の習慣やコミュニケーションに反映されている。そのような韓国における人間関係のあり方や言葉などの興味深い例から、人間関係の築き方を考えるヒントとしていただきたい。	アジア文化論准教授 池 貞姫
8 月 24 日(金) 午後 7 時～	「南予古代文化の特色」 今日、南予は愛媛県のなかにあっても、独自の地域を形作っているが、その始まりは遅くとも 2000 年前に遡る。それは新たな文化を受け入れる一方、伝統的な文化も強く固持する点にあるが、当時の生活必需品である土器作りに典型的に現れる。その世界は、結構に広く、南予から土佐にまで及んでいる。こうした古代南予世界の独自性を南予での発掘成果に基づいて紹介する。	先史考古学教授 下條 信行
9 月 21 日(金) 午後 7 時～	「世界遺産の街クヴェートリンブルク（ドイツ）のまちづくり」 クヴェートリンブルクは、ベルリンの西南西に位置し、千年以上の歴史を持つ人口 2 万 7 千ほどの小さな中世の町である。中心の小高い丘に立つ城と聖堂参事会教会とそれを取り巻く旧市街が 1994 年に世界文化遺産に登録された。ドイツ最古の木組み家屋を筆頭に千以上の木組み家屋が修復されて、中世の家並みや路地群が復活して見事だが、まだ崩れ落ちそうな廃屋も数多く残っている。しかしまちづくりは、家屋の復元だけではない。現代に蘇り、未来に生きる町は、何をを目指すのか、クヴェートリンブルクの挑戦を見てみよう。	ドイツ近代文学論教授 森 孝明
10 月 12 日(金) 午後 7 時～	「日本の暮らしと文化—四国遍路と白装束—」 四国遍路といえばあの「白装束」の姿が浮かびます。しかし、あの姿はいつ生まれたのでしょうか、また一体何を意味するのでしょうか。今回は私が挑んだ、その謎解きの過程と意外な結果をお話しましょう。	日本歴史文化論教授 内田 九州男
11 月 12 日(月) 午後 7 時～	「草原からの風が内子に吹き寄せる—似ていないようで似ているモンゴル人と日本人そしてその暮らし」 モンゴルと日本、たしかに、気候風土もそこで展開されている暮らしも、われわれ日本人のそれとは大きく違います。ですが、よく見れば、実は……この続きは、じかにお話しさせていただきます。	言語構造論教授 樋口 康一
12 月 6 日(木) 午後 7 時～	「世界と日本の酒文化」 世界における酒類文化地域区分について述べた後、ヨーロッパ、アフリカ、東アジアの酒類文化を詳述する。さらに、日本の酒類文化の特徴と酒類を核とするまちづくりについて考察する。	地域景観論教授 寺谷 亮司
1 月 25 日(金) 午後 7 時～	「合併と住民自治 —安芸高田市の挑戦—」 広島県安芸高田市は、旧高宮町の住民自治のシステムを合併後の新市に引き継いで注目すべきまちづくりを実践しています。住民自治のまちづくりは、地域と地域住民が成長・発展するために必須のものです。安芸高田市の事例を参考にして、住民自治のまちづくりをともに考えたいと思います。	地域システム論教授 藤目 節夫
2 月 19 日(火) 午後 7 時～	英国発！文化の息づかいが聞こえる町づくり ～リバプールの再生～ 英国北部のリバプールは、19 世紀の産業革命の花形でしたが、21 世紀を迎え、文化都市として変身を遂げようとしています。元気いっぱいのリバプールの町づくりを、ビートルズの音楽にのせてお話しします。	英語動態論准教授 今泉 志奈子